

兵庫県福祉サービス第三者評価の結果

1. 評価機関

名 称	(株) 第三者評価
住 所	大阪市東淀川区東中島 1-17-5 ステュディオ新大阪内
評価実施期間	2012年 6月20日 ~2013年 2月18日 実地訪問調査日 2013年 1月31日 (木)
評価調査者	HF05-1-0098 吉山 浩 (リーダー) HF06-1-0019 山田 奈津美 (メンバー) HF05-1-0100 池上 裕子 (報告書査読)

※ 契約日から
評価結果確定日

2. 福祉サービス事業者 概要

事業所名称： 光の子保育園	種 別： 第2種社会福祉事業 児童福祉施設 保育園
代表者氏名： 岡田 敦子 園長	開設年： 平成3年4月1日
経営主体： 社会福祉法人 あかしあ	定 員： 120名
所 在 地： 〒669-1323 兵庫県三田市あかしあ台5丁目30番地1	
電 話 番 号： 079-565-0052	F A X 番 号： 079-565-2122

3. 理念・方針等

理念

家庭と共に子どもが健康で伸び伸びと明るく育つようにします。

方針

- ・家庭的な雰囲気の中で子どもたち一人ひとりを大切にし、安心して生活できるように心がけます。
- ・基本的な生活習慣を養い、自立して生活できるよう育てます。

光の子保育園の子ども像

- ・豊かな心でやさしい気持ちをたくさんもてる子ども
- ・友達同士で助け合い、何事にも意欲をもって取り組む子ども
- ・泣いたり、笑ったり、怒ったり、自分の心を素直に出せる子ども
- ・愛されることにより自分を愛し、まわりの人を愛せる子ども

○ 特に力を入れて取り組んでいること

《 環境を大切に 》

◎木製の家具や遊具、手作り遊具を多く取り入れ、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの空間を保障し、落ち着いて過ごせるよう心がけています。

《 信頼関係を育てる 》

◎乳児では食事・睡眠・排泄などの育児を決まった保育士が行うことにより、丁寧に接することができ、一人ひとりの成長・発達に合った援助をしています。（担当制）

《 遊んで育つ・学ぶ 》

◎自由に遊びを選択できる環境の中で、様々な遊びを経験し、子ども一人ひとりの成長を促します。
◎遊びや人との関わりを通じてコミュニケーション能力や社会性を育てます。
わらべうたあそびをする中で、人とのふれ合いを心地よく感じ、心豊かな子に育てます。

《 共に育つ・考える 》

◎幼児では、きょうだい保育（3～5歳児混合）を実施しています。異年齢との関わりを通じて、相手を思いやる心や自尊心を育てます。
◎幼児クラスでは、課業（興味・関心を高める時間）があります。遊びや体験を通して豊かに生きる力を育みます。

課業とは・・・

- | | |
|--------|--------------------|
| ☆わらべうた | 感性と聴く力を育てます。 |
| ☆体 育 | 頭と心と身体を育てます。 |
| ☆環境認識 | 自分を取り巻く環境を知ります。 |
| ☆数 | 数・量に対して興味・関心を高めます。 |
| ☆文 学 | 想像力（ファンタジー）を育てます。 |
| ☆美 術 | 創造力・表現力を養います。 |

《 食べることを楽しむ 》

◎子どもたちの心と身体を作る食事は子どもの発達段階に合わせた食事の形態（離乳食・乳児食・幼児食）を取り入れ、子どもたちが元気よく活動できるように、栄養面などを考えた食事を提供しています。
◎うす味を心がけ、子どもたちが食べやすいように調理方法を工夫しています。また、おやつは手作りおやつを多く取り入れています。
◎子どもの成長に合わせた陶器の食器やスプーンを使用しています。

**0歳児の食事
担当保育士と決まった
時間に食事をします。**



**幼児クラスの環境認識
乗り物についてみんなで知っている
ことを出し合います。**



4. 園児の状況に関する事項（平成 25 年 1 月 1 日現在）

6ヶ月～1歳3ヶ月未満	1歳3ヶ月～2歳未満	2歳児	3歳児
3名	13名	25名	21名
4歳児	5歳児	6歳児	合計
28名	28名	18名	136名

5. 職員の状況に関する事項（平成 25 年 1 月 1 日現在）

—	合計	園長	主任	保育士	栄養士
常勤	22名	1名	1名	17名	3名
非常勤	4名	—	—	4名	—

6. 直近3カ年 ボランティアの受け入れ人数推移 【子どもと関わり、育児や遊びに参加】

・平成 24 年度 12人 ・平成 23 年度 7人 ・平成 22 年度 5人

7. 直近3カ年 実習生の受け入れ人数推移

・平成 24 年度 12人 ・平成 23 年度 11人 ・平成 22 年度 7人

8. サービス利用者からの意見等の聴取について

- ・個人懇談やクラス毎の保護者会を定期的に行う。（年2回）
- ・クラス担任または、園長・主任が直接話しを聞いています。
- ・意見ボックスや第三者委員を設置している。また、設置していることをおたよりや掲示で知らせる。

評価結果

☆☆☆ 特に評価の高い点 ☆☆☆

1) 保育に対する研究が熱心で、科学的根拠と信念を持って実践されています。

外部研究機関と協働し、科学的な根拠をベースに子供たちの感性や知能、心身の発育を支援する様々な取り組みを行っています。一例として、子供たちがスムーズに「食事」出来るように、成長に合わせて5種類のスプーンを使い分けています。単に「年齢に応じた食べやすい道具」というだけでなく、複雑な身体動作とそれと同時に起こる脳への刺激をスムーズに結び付け、心身と脳の成長を促す効果があります。



左から

- ① 離乳食初期～中期食頃の介助用
- ② 中期食～後期食頃の介助用
- ③ 後期食～完了期食の介助用
- ④ 完了期食以降の自力摂取
- ⑤ 幼児クラスの自力摂取用

2) 子供たちが使用するおもちゃは保育士が子供たちの感覚や感性、心身の成長に合わせたものを用意し、保育士一人ひとりが、いつ誰に、どんなおもちゃが必要かを理解し、提供しています。このように空間・遊具・時間を整えることで子どもが遊びを自由に選択して、自ら遊ぶようになります。



3) 保育現場の業務のマネジメント（PDCAサイクル）が機能しています。

子供たちを対象とする保育サービスの現場では日々どころか時間単位で予定された支援内容の変更が必要です。その際、保育士間で迅速に、「変更案の検討」→「変更計画の作成」→「変更内容の周知・共有」→『実践のマネジメント』がスムーズに行われています。これは基本となる『保育計画』が十分な検討のもと作成されているから出来ることです。

4) 園を訪れると伝承音楽“わらべ歌”が、『遊ぼう』と心の奥深くの琴線に触れてきます。

★ さらなる飛躍の芽は、ここにあると思います。御一考下さい。

- ① プロフェッショナルとしてのこだわりと共に、併せ持ちたいものが、サービスの受け取り手である子ども・保護者の声を定期的・継続的に収集・分析して、その結果を反映・微調整（虫の目・鳥の目・魚の目で、己を突き放し客観視する手段）する事です。そのような手順を業務マニュアルに組み込まれては如何でしょうか

「虫の目」 近いところで、複眼をつかって様々な角度から注意深く見る目

「鳥の目」 広い範囲を、高いところから俯瞰して見る目

「魚の目」 水の流れや潮の満ち干、世の中の流れを敏感に感じとる目

- ② 若い保育士一人ひとりの得手・特性（知識・技術水準・技能）に合った研修計画とその実施結果の見える化をされては如何でしょうか

第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価を受けて、『光の子保育園として大切にしているものは何か』ということがクローズアップされました。それと同時に、組織として大切な管理についてや職員との情報共有などについてを学び、整理することができました。保護者アンケートの結果は、園の保育に対する理解や励ましをいただき、今後の原動力になりました。また、普段気づかなかった保護者の思いに触れることができ、今後も課題となる部分については、職員と共に考えていきたいと思ひます。

今回、評価の過程で学んだことをこれから継続して見直していきながら、積み重ねていきます。

- 各評価項目に係る評価結果グラフ （別紙）

評価細目の第三者評価結果

【 評価結果欄の説明 a 目標となる高いレベル b 一般的なレベル c 改善の機会 】

評価対象 I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針を確立している。		
I-1-(1)-①	理念を明文化している。	a
I-1-(1)-②	理念に基づく基本方針を明文化している。	a
I-1-(2) 理念や基本方針を周知している。		
I-1-(2)-①	理念や基本方針を職員及び利用者やその家族等に周知している	a

特記事項

理念、方針、子ども像は、「入園のしおり」に記載があり、園内の玄関に掲示されています。
職員への周知は、会議で行われており、その実施記録にて取組み状況を確認しました。
また、1/31 訪問時、数名の保育士、栄養士の頭に刻み込まれているか、理念・方針の理解度を口頭で確認しました。保護者への説明は、入園時や懇談会等で行われています。

I-2 計画の策定

		第三者評価結果
I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画を明確にしている。		
I-2-(1)-①	中・長期計画を策定している。	a
I-2-(1)-②	中・長期計画を踏まえた事業計画を策定している。	a
I-2-(2) 計画を適切に策定している。		
I-2-(2)-①	計画の策定を組織的に行っている。	a
I-2-(2)-②	計画を職員や利用者に周知している。	a

特記事項

「3～5年 中長期計画」を確認し、平成24年度実施済み ①マニュアル記録総点検、②園庭遊具撤去・改修、③駐車場バギー通路整備、④南海トラフ対策の防災設備・避難場所の確認等が予定通り実施されていました。平成25年度は、①園庭遊具の新設、②散歩マップ作成等、平成26年度は、備蓄品の入れ替え、②短時間パートの増員、③空調入れ替え等を計画されています。
事業計画案が職員の参画のもと策定され、実施状況の把握、評価を行っています。

I-3 管理者の責任とリーダーシップ

	第三者評価結果
I-3-(1) 管理者の責任を明確にしている。	
I-3-(1)-① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	a
I-3-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
I-3-(2) 管理者のリーダーシップを発揮している。	
I-3-(2)-① 質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	a
I-3-(2)-② 経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	a

特記事項

園長、主任等の役割、責任、顔写真を玄関ホールに掲示し、保護者に分かりやすく、いつでも見られるようにしています。

遵守すべき法令等を正しく理解するための取組として「法令リスト」を作成し、職員に周知を図っています。また、1/31 訪問時、数名の保育士、栄養士の頭に刻み込まれているか、その理解度を口頭で確認しました。

保育の質の向上の為に、過去のノウハウを基に、今回の評価を機会に「業務マニュアル」を新規で主任を主に、職員総がかりで集大成し、チェックリストで確認しています。

～ 遊びを通じて成長 ～

<p>1歳児クラスの室内遊び 『いただきます』入れたり、 出したり、並べたりする</p>	<p>幼児クラスの役割あそび 『いらっしやいませ』回転寿司ごっこ</p>
	
<p>2歳児クラスの構造遊び 積木や色板を並べて電車や道路づくり</p>	<p>幼児クラスの構造遊び 高さやカーブをつけた道路づくり</p>
	

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ－１ 経営状況の把握

	第三者評価結果
Ⅱ－１－(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	
Ⅱ－１－(1)－① 事業経営をとりまく環境を的確に把握している。	a
Ⅱ－１－(1)－② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている。	a
Ⅱ－１－(1)－③ 外部監査等を実施している。	a

特記事項

“子育てするなら三田市”に相応しく、情報や施策が豊富で、頻繁に市内の保育園の園長会が開催されており、その際の資料や全国私立保育連盟の保育通信等で、保育園を取り巻く情報を入手している。また、会計事務所F社による監査実施報告書、及びその際の指摘事項に対する是正を確認しました。

Ⅱ－２ 人材の確保・養成

	第三者評価結果
Ⅱ－２－(1) 人事管理の体制を整備している。	
Ⅱ－２－(1)－① 必要な人材に関する具体的なプランを確立している。	a
Ⅱ－２－(1)－② 人事考課は客観的な基準に基づいて行っている。	a
Ⅱ－２－(2) 職員の就業状況に配慮している。	
Ⅱ－２－(2)－① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みを構築している。	a
Ⅱ－２－(2)－② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	a
Ⅱ－２－(3) 職員の質の向上に向けた体制を確立している。	
Ⅱ－２－(3)－① 職員の教育・研修に関する基本姿勢を明示している。	a
Ⅱ－２－(3)－② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画を策定し、計画に基づいて具体的な取組を行っている。	a
Ⅱ－２－(3)－③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている	a
Ⅱ－２－(4) 実習生の受け入れを適切に行っている。	
Ⅱ－２－(4)－① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	a
Ⅱ－２－(4)－② 実習生の育成について積極的な取組を行っている。	a

特記事項

「教育計画」、「研修報告書」、「人事考課資料」等により人材に関するプランを確認できました。職員一人ひとりの教育・研修計画とその結果をより一層、見える化を徹底されると、さらに進化されると思います。また、「年次有給休暇」、「休暇等届」の記録状況、及び年1回親睦の為の職員旅行、年度末の慰労会、互助会への加入を確認しました。保育サポート、巡回相談、発達センター、かるがも園等、希望があれば職員が相談できるようになっています。

実習生の受け入れの流れは、「実習生対応マニュアル」に記載されており、園長が実習担当者に、「何を伝え、何を学ぶか」を周知徹底しています。「覚書」を取り交わし、オリエンテーションを実施し、実習計画も作成し多くの未来の保育士を受け入れています。

☆ 実習生の受け入れ人数

平成24年度 12人 平成23年度 11人 平成22年度 7人

II-3 安全管理

	第三者評価結果
II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取組を行っている。	
II-3-(1)-① 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制を整備し機能している。	a
II-3-(1)-② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	a

特記事項

「業務マニュアル（事故対応）」、「事故防止のチェックリスト」、「ヒヤリハット」等を確認、職員参画のもと未然防止策を検討している事を確認しました。また、「業務マニュアル（事故対応）」には、万が一の際の、事故発生時の対応及び連絡先を明記しており、職員に回覧し周知徹底を行っています。緊急の場合に備えて関係団体（三田市、宝塚健康福祉事務所、給食施設協議会等）と情報交換、連絡・協力体制を作っています。



II-4 地域との交流と連携

	第三者評価結
II-4-(1) 地域との関係を適切に確保している。	
II-4-(1)-① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	a
II-4-(1)-② 事業所が有する機能を地域に還元している。	a
II-4-(1)-③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
II-4-(2) 関係機関との連携を確保している。	
II-4-(2)-① 必要な社会資源を明確にしている。	a
II-4-(2)-② 関係機関等との連携を適切に行っている。	a
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	
II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズを把握し、事業・活動を行っている。	a

特記事項

地域の子育て支援情報を保育園正面の掲示板にチラシを掲示し、玄関入り口に資料を設置し、自由に持ち帰れるようにしています。週1回園庭開放、子育てステーション事業、すくすく広場（年間72回）を実施しています。「保・幼・小・中連携会」に参加し、地域の小学校と交流しています。

また、虐待対応マニュアルを整備し、市役所、児童相談所などと連携しています。

ボランティアに関しても、「業務マニュアル」に意義・方針、手順を記載し、「ボランティアのみなさまへ」等、各種書面を整えています。

☆ ボランティア受け入れ人数

- ・平成24年度 12人
- ・平成23年度 7人
- ・平成22年度 5人

ステーション事業
親子でわらべうたを楽しむ



わらべうたは1対1で子どもの目を見ながら触れて遊んだり (左)

数人の友だちと一緒に楽しむことができます (中)

幼児クラスになるとみんなでわらべうたあそびを楽しむことができます (右)

1歳児クラス	2歳児クラス	幼児クラス
		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

	第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢を明示している。	
Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	a
Ⅲ-1-(2) 利用者満足の上昇に努めている。	
Ⅲ-1-(2)-① 利用者の意向の把握と満足の上昇への活用に取り組んでいる。	a
Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制を確保している。	
Ⅲ-1-(3)-① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	a
Ⅲ-1-(3)-② 苦情解決の仕組みを確立し十分に周知・機能している。	a
Ⅲ-1-(3)-③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	a

特記事項

子ども・保護者を尊重した保育が実施されており、プライバシー（羞恥心）に配慮した取り組みが実施されています。玄関に意見箱を設置、相談のスペースもあります。

苦情解決の仕組みは、『社会福祉事業の経営者による福祉サービスに関する苦情解決の仕組みの指針（厚生省児童家庭局長 平成12年6月7日）に沿った形で実施されており、苦情解決責任者を園長、苦情受付担当者を主任、第三者委員に外部で体制整備、園内掲示もされています。

今回、評価機関のルールに沿って保護者アンケート（実施時期 9月）を実施、（園児 133人、総家庭数 107家族、アンケート回収 103件、回収率 96.3%）、保護者の高い満足度を示していました。（保育園の総合評価 大変満足47.6%、満足40.8%、どちらかといえば満足 7.8%、どちらかといえば不満 1.0%、不満1%、大変不満1%）

但し、下記のアンケート4項目は、今後も継続的にWATCHが必要です。

保護者アンケート結果より抜粋 (今後も継続的なWATCHが必要な4項目)

【保育園の状況】

4 子どもの事故防止や保育環境を整備するための施設の改善・補修が適切に

行われていると思いますか？

→ はい 73 (70.9%) どちらともいえない 26 (25.2%) いいえ3 未記入1

【子どもの様子】

7 お子さんが、生活発表会や運動会などの各種行事に楽しんで参加していますか？

→ はい66 (64.1%) どちらともいえない9 (8.7%) いいえ0 未記入28 (27.2%)

【要望・意見や不満・トラブルへの対応】

25 お子さんや保護者の不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか？

→ はい 79 (76.7%) どちらともいえない 17 (16.5%) いいえ3 未記入4

26 お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか（意見箱）？

→ はい 73 (70.9%) どちらともいえない 23 (22.3%) いいえ2 未記入5

Ⅲ-2 サービスの質の確保

	第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取組を組織的に行っている。	
Ⅲ-2-(1)-① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	a
Ⅲ-2-(1)-② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	a
Ⅲ-2-(1)-③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。	a
Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法を確立している。	
Ⅲ-2-(2)-① 個々のサービスについて標準的な実施方法を文書化しサービスを提供している。	a
Ⅲ-2-(2)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みを確立している。	a
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録を適切に行っている。	
Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関するサービス実施状況の記録を適切に行っている。	a
Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制を確立している。	a
Ⅲ-2-(3)-③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a

特記事項

保育サービスの質の向上に向け、外部研究機関と連携したり、種々の勉強会に参加するなど、熱心に取り組んでいます。科学的な根拠をベースに子供たちの感性や知能、心身の発育を支援する様々な取り組みをしています。また、「業務マニュアル」、「離乳食のすすめ方」、「保育過程」、「指導計画」、「保育日誌」、「連絡帳」、「児童票」、「健康記録」等を見直し、標準的な実施方法が確立されている事を確認しました。進化の源となる課題の洗い出しを行った「目標達成計画」を確認、改善の進捗状況も目視しました。子ども・保護者に関する情報は、園長が個人情報管理者となり、「個人情報保護規程」に基づき体制を整備し、管理しています。

Ⅲ-3 サービスの開始・継続

	第三者評価結果
Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始を適切に行っている。	
Ⅲ-3-(1)-① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	a
Ⅲ-3-(1)-② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	a
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	
Ⅲ-3-(2)-① 事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a

特記事項

保育サービスの情報提供は、「パンフレット」に記載されており、イラスト等に気を配り、見やすい内容になっています。また、その「パンフレット」は、多世代交流館『ふらっと』などの公共施設にも置いています。

利用の説明に際しては、園長が責任者となって、分かりやすく説明しています。

見学希望は積極的に受け入れ、また週1回園庭開放を実施し、随時園内の様子を見てもらえるように対応しています。

また、保育園の転園や小学校への進学にあたり、継続性を考慮した対応を行っています。

食育の取り組み		
年長になると一緒に食事をする子の盛りつけを手伝ってくれます。	子どもたちが野菜を洗って、皮をむき、包丁で切ってカレーづくりをします。	子どもたちと作った野菜を収穫して食べます。
		

Ⅲ-4 サービス実施計画の策定

	第三者評価結果
Ⅲ-4-(1) 利用者のアセスメントを行っている。	
Ⅲ-4-(1)-① 定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	a
Ⅲ-4-(1)-② 利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	a
Ⅲ-4-(2) 利用者に対するサービス実施計画を策定している。	
Ⅲ-4-(2)-① サービス実施計画を適切に策定している。	a
Ⅲ-4-(2)-② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a

特記事項

年間カリキュラム、月案、個人カリキュラム等クラスを担当が作成、主任が確認しています。クラスごとに担当が子どもの発達、保護者の様子などを話し合い作成しています。乳児研修、幼児研修、職員会議、交流会研修、公開保育などを通し、保育内容の確認・伝達・分析を行い技術向上に努めています。評価・見直しの結果は、関係職員に説明し、場合によってはリーダー会、申し送り表にて変更を伝え子どもの情報を園内で共有しています。

一般的に、保育園では初めて家庭から離れた子供たちが家族以外の大人や子供たちと関係性を持つ中で社会性を身に着けることを支援します。それをより効果的に実践するために、「きょうだいクラス」を設置して異年齢保育を実施しており、子供たちはその中で集団行動でルールや協調性を身に着ける練習をします。集団のルールを身に着けるための取り組みとして昼食はみんなでそろって食べる事が普通ですが、あえて「決まった席、決まった食事の順番の中で、食べる準備のできた子から自分の席に着き食べ始める」スタイルをとっています。準備のできた子からテーブルに座って食べ始めるので、1人で食事しているところに準備のできた子が食べに来るテーブルや数人が一緒に食べ始めるテーブルがあります。少し離れた所ではおもむろにおもちゃを片づける子供や、自分の順番まで遊んでいる子供・・・と、集団の中ですが個々のペースで、自分で今何をすべきか考えて行動しています。全員一緒に『いただきます』をしない、というスタイルに至るには保育士全員のまじめな葛藤がありました。以前は全員がそろってから一緒に『いただきます』をしていましたが、子供たちは同年齢、異年齢にかかわらず行動のペースが一人ひとり違うので、全員でそろって『いただきます』をするのは、逆に待つ子供にも待たれる子供にも「ストレスになるのでは？」という疑問が生まれました。そこで保育士全員で何度も何度も話し合いをし、考えたことは「まずは個人のペースを大切にすることでやる気を育てる。そして、自分で気づきできることが集団としてのまとまりやルールを守ることに繋がっていく」ということでした。その結果、今のスタイルで昼食を実施するようになりました。

ここで評価すべき点は、保育士が従来のスタイルに疑問をもてる点、またそれを全員が納得するまで話をする点、そして「今はこのスタイルですが、この後社会も子供たちも変わるでしょうから、その時はまたそれに応じたスタイルに変えます」という、常にPDCAを意識してサービスのスタイルを常に変化させる取り組みを実践している点です。

それだけでなく、何より一番心強いのは、園長、主任を始め、保育士全員が議論を続け、根拠と信念を持って保育を実践している点です。

評価対象Ⅳ 実施する福祉サービスの内容

Ⅳ-1 子どもの発達援助

	第三者評価結果
Ⅳ-1-(1) 発達援助の基本	
Ⅳ-1-(1)-① 保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成している。	a
Ⅳ-1-(1)-② 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定している。	a
Ⅳ-1-(2) 健康管理・食事	
Ⅳ-1-(2)-① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	a
Ⅳ-1-(2)-② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	a
Ⅳ-1-(2)-③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映している。	a
Ⅳ-1-(2)-④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している。	a
Ⅳ-1-(2)-⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている。	a
Ⅳ-1-(2)-⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a
Ⅳ-1-(2)-⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	a
Ⅳ-1-(2)-⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	a
Ⅳ-1-(3) 保育環境	
Ⅳ-1-(3)-① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a
Ⅳ-1-(3)-② 生活の場に相応しい環境とする取組を行っている。	a
Ⅳ-1-(4) 保育内容	
Ⅳ-1-(4)-① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	a
Ⅳ-1-(4)-② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	a
Ⅳ-1-(4)-③ 子どもが自発的に活動できる環境を整備している。	a
Ⅳ-1-(4)-④ 身近な自然や社会とかかわれるような取組を行っている。	a
Ⅳ-1-(4)-⑤ さまざまな表現活動が体験できるように配慮している。	a
Ⅳ-1-(4)-⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	a
Ⅳ-1-(4)-⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	a
Ⅳ-1-(4)-⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	a
Ⅳ-1-(4)-⑨ 乳児保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	a
Ⅳ-1-(4)-⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	a
Ⅳ-1-(4)-⑪ チャレンジド(障がい児)保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a

訪問評価当日 1/31 (木) の献立：昼－おやこどん・はくさいのおかかあえ、おやつ－きなこサンド、ぎゅうにゅう 子どもに人気でした。給食のサンプル展示も玄関ホールにて確認しました。おやつは、できる限り手作りを心がけていて、おにぎり・カップケーキ・蒸しパン等です。食器の材質や形などに配慮して、重みがあり支えやすく、きちんと扱うことを学べる陶器を使用しています。スプーンも口腔内の発達に合わせて数種類を使用しています。

9月実施の保護者アンケートより抜粋 【情報の提供】

13 サンプル展示などで、毎日の給食やおやつの内容が分かるようになっていませんか？

→ はい 103 (100%)

わらべうたに力を入れています。『なぜ、良いのか？』と聞きましたら。

- ・ 抱かれたり、触れられたりする中で愛情や親愛の深さを感じることができる
- ・ 未発達な声帯に負担をかけない
- ・ 昔からうたいつがれたもので、日本人のアイデンティティを大切にしている
- ・ いつでも、どこでも、誰でも歌える
- ・ 子どもの耳は単一の音のみ聞き分ける。たくさんの音があると正しく聞き分ける事が出来ない
- ・ 仲間と協調することで社会性につながる
- ・ 身体の部位に触れながら遊ぶことで身体像を知る
- ・ いろいろ動くことで身体を調整する力や、しなやかさを身につけることができる 等々

保育のプロフェッショナルらしく、論理的な説明を受けました。

『先生と呼ばずに〇〇さんと呼び』、子どもの人格を尊重し、保育士の人格で保育されています。

チャレンジド（障がい児）は、現在居りませんが、専門機関と連携しカンファレンスを実施し、専門知識を取り入れ保育に生かす体制が整っています。

9月実施の保護者アンケートより抜粋 自由記述部分の抜粋

[保護者の立場からみて、お子さんが通っている園はどのような特徴があると思いますか?]

クラス：さくらんぼ 園児 9人 総家庭数 回収7/配布7件 回収率 100%

①家庭的。わらべ歌などでスキンシップを取っている。手作りのおもちゃなど子供たちの想像を促すような素朴なおもちゃを使っている。行事に追われず、子供の普段の生活を大切にしている。

②のびのびと育ち、友達を大切にする心や豊かな心が育つ園だなと感じています。

③3・4・5歳児はたて割り保育で一緒に過ごしている。衛生面に気を遣っている。

④担当の組以外の先生も優しく声を掛けたり挨拶して下さり、安心して子供を預けられます。

クラス：たんぼぼ 園児 20人 総家庭数 回収19/配布19件 回収率 100%

⑤規模が比較的大きいと思いますが、アットホームな雰囲気が保たれていると思います。

⑥保育士さんは大変だと思うが、行事や懇談などは仕事を持つ親がなるべく休まず参加できるように時間的配慮が十分されている。(他園と比べても)

⑦保育士の方々を先生と呼ばずお名前と呼ぶようにしているのは親しみ易さがあり、とても良いなと思います。

⑧子供の成長に合った保育環境になっていてあたたかな心配りが至るところにあります。

おもちゃもキャラクターに頼ることなく、ぬくもりを感じる手作りの物が多いと思います。

「わらべうた」遊びは子供も気に入っていて、「ふれあいが」感じられます。

IV-2 子育て支援

	第三者評価結果
IV-2-(1) 入所児童の保護者等への育児支援	
IV-2-(1)-① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	a
IV-2-(1)-② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している	a
IV-2-(1)-③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	a
IV-2-(1)-④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている。	a
IV-2-(1)-⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	a
IV-2-(1)-⑥ 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	a

特記事項

個人の「ノート連絡帳」・「ホワイトボード」・「毎日の声掛け」等で密接に日常の連絡を保護者に行っており、個人懇談、保護者会、参観で保護者とゆっくり話をする機会を設けています。保育に参加してもらう体験も大切に思い、トライやるデイ（参加型参観）は、いつでも参加可能としており、熱心に取り組んでいます。

『虐待予防・早期発見のために対応ブック』を熟読し、職員会議で議題に挙げています。

IV-3 安全・事故防止

	第三者評価結果
IV-3-(1) 安全・事故防止	
IV-3-(1)-① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施している。	a
IV-3-(1)-② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知している。	a
IV-3-(1)-③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取組を行っている。	a
IV-3-(1)-④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知している。	a
IV-3-(1)-⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知している。	a

特記事項

訪問調査当日の朝、園庭にある、KOMPAN（コンパン・デンマーク製）の遊具、WINTHER（ウィンザー・デンマーク製）の三輪車で子ども達が、楽しそうに笑顔で遊んでいました。園庭・遊具・厨房等は、定期的に安全点検表で、事故防止に向けた取り組みが実施されています。子どもたちに対する安全教育は、保育中にも小さな“標識”を使い遊びを通じて実施しており、また三田交通安全協会の交通指導員が、6/12（火）AM10～11 来園し、直接指導を受けています。避難訓練は毎月実施しており、大規模災害用の備蓄品（飲料水：6年間の保存期間に対応 等）も準備が進みつつあります。（備蓄品一覧 2012.10 現在）

光の子保育園 園庭

